



NEWS LETTER



連続自治体特別企画セミナー 年間計画

COMING SOON

次年度も原則木曜日開催を予定しております。

詳細が決まり次第、ニュースレターやHP、Facebookなどでご連絡いたします。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベントを開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター
〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319

mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

KPIのfacebookに
アクセスして情
報をチェック！ →



2015年3月1日発行

これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー

第5回セミナー

1月29日(木)、名古屋学院大学経済学部教授で元岐阜県多治見市長の西寺雅也(にしでらまさや)氏をお迎えし、『縮小時代の自治体経営-自律自治体の形成を目指して-』を開催しました。西寺先生にご講演頂いたあと、本学公共政策学部の川瀬光義(かわせみつよし)教授と対談頂きました。

西寺先生には、1996年の財政緊急事態宣言の発表後、総合計画を重視した行政運営を押し進めた背景や、総合計画による政策管理の方法についてお話し頂きました。

最後に、これから公務員を目指す人へ「行動力・コミュニケーション能力をもち、現場からボトムアップで政策を立案できる者になって活躍してほしい」とのメッセージを頂きました。

【参加者の声】

・総合計画策定に今まさに関わっているのが、非常に興味深い話を聞かせていただいた。財政との連動は難しさを実感しているが、人口減少時代の自治体戦略には不可欠。多治見市のように実行出来るよう取り組みたいと改めて感じた。

(京都府内市町村職員)

・自治体経営において、自立性を確立することが縮小時代を生き抜く術だと理解できた。(他大学学生・院生)

・最後のメッセージが印象的だった。来年度から県職員になるが、ボトムアップの行政を目指したい。(他大学学生・院生)



*講演概要はホームページに掲載しています。

今年度のセミナー終了！

今年度の連続自治体特別企画セミナー参加者は延べ242名でした。(特別企画)地域に飛び出す公務員セミナー(210名)、日本経済研究所(株)との共催セミナー(140名)の参加者を含めると、延べ600名近くの方にご来場頂きました。ご来場頂きましたみなさま、ありがとうございました！

報告

第6回セミナー



2月12日(木)、長野県飯田市長の牧野光朗(まきのみつお)氏をお迎えし、『「ニッポンの日本」をデザインする南信州・飯田の戦略的地域づくり』を開催しました。牧野市長にご講演頂いたあと、KPIのメンバーであり、本学公共政策学部の川勝健志(かわかつたけし)准教授と対談頂きました。

牧野市長からは、飯田市のまちづくりの原点のお話や、地域が直面する課題への対応として、定住自立圏の確立、雇用機会の創出、多様な主体が協働する地域づくり、地域力による心豊かな人づくり、既成概念を乗り越えた自立した地域の形成という5つの取組を中心にお話頂きました。

また、今回は参加者とのやり取りをしながらの、相互交流のあるセミナーとなりました。

【参加者の声】

・魅力ある都市づくりには、首長のリーダーシップが必要不可欠であると実感しました。(京都府内市町村職員)

・様々な課題に対して「ラウンドテーブル」の場で議論を重ね解決策を導くのがポイントだと感じました。(一般)

・自立経済圏のモデルとして飯田市の取組は大変参考になった。(一般)

・熱い思いが伝わり、当事者意識の本物を感じました。(京都府立大学学生・院生)

・公民館活動の重要性が認識出来た。中山間地域のこれからの可能性を感じた。(京都府内市町村職員)

*講演概要はホームページに掲載予定です。



(左) 1/24に実施した久御山町まち歩きの様子。町の歴史や神社の説明を聞きながら、町内を巡りました。

(右) 2/13に実施した行政評価に係る市町村連絡会議の様子。写真は窪田准教授の講演時の様子。

「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式

京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウムが開催されました

2月6日(土)、KYOTO地球環境の殿堂表彰式と京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウムが開催されました。表彰式では、殿堂入り者の畠山重篤氏(NPO法人森は海の恋人理事長/京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授)が表彰されました。国際シンポジウムでは、畠山氏の記念講演の後、畠山氏、C.W.ニコル氏(作家・ナチュラリスト)、杉本節子氏(食文化研究家)、山極壽一氏(京都大学総長)をパネリスト、阿部健一氏(総合地球環境学研究所教授)をコーディネーターに迎えたパネルディスカッションが行われました。

当日は、KPIが企画・運営したスペシャルセッション(2014年12月6日開催)のレポート冊子も資料として参加者に配布しました。

久御山町受託研究

久御山ガイドマップ作成中!

町制施行60周年を迎えた久御山町からの委託を受け、町のガイドマップを作成するため、町の歴史団体や中学生以下の子どもをもつ親御さんを中心にワークショップとヒアリング調査を実施してきました。また、町の職員さんに案内・説明していただきながら、KPIメンバーと大学院生、デザイナーと一緒に町の3校区を回り、町の宝物や特徴を探しました。現在、これらをもとに町の新しいマップを作成中ですが、住民の皆さんに久御山町の魅力を再発見していただけるようなマップを目指しています。ご期待ください!

京都府協働研究

行政評価に係る市町村連絡会議を開催

京都府との協働研究「市町村行革支援に関する調査研究」では、現在府内市町村の行政評価の導入状況や、導入している市町村における行政評価の実施状況、実施にかかる職員の負担感を調査しました。これらの調査を受け、2月13日に京都府内の市町村の職員の方々に集まっていたとき、市町村連絡会議を開催しました。

当日は、本学公共政策学部の窪田好男准教授と、窪田准教授ゼミ4回生の池田葉月さんに『行政評価の職員負担-府内自治体を対象とする調査結果から-』と題する講演を頂いたあと、3グループに分かれてグループディスカッションを行いました。

グループディスカッションでは、行政評価の成果やその反映結果が見えにくいこと、行政評価の意義を理解しにくいこと、職員の事務負担が重いことなどが課題として浮かび上がりました。

しかし、一方で市民を巻き込んだ行政評価によって前向きな意見も出ること、関係団体が行政の施策の内実を知り行政への対応が変わることがあること、研修によって評価の意義は理解しやすくなることなどの意見も共有することが出来ました。

ACTR

沼津・東北へ視察調査を実施

KPIでは、本学男女共同参画推進室が取り組むACTR「京都府男女共同参画センターの新たな役割と市町村支援のあり方」に参画しており、2月20日に沼津市、2月23日~24日に石巻市や岩手大学に視察調査を行いました。

沼津市では、市内の職住混合地域である第五地区の「沼津第五地区センター」で、センター長の芹澤氏及び沼津市役所企画部市民協働課の方々から、静岡県立大学の犬塚教授と取り組んでおられる『沼津市男女共同参画推進モデル地区事業』について聞かせていただきました。従前からの自治会活動を通じてその中で、「男女共同参画とは」を住民に考えてもらう取組で、初歩的・基礎的な理解浸透に効果的であったことから、引き続き、農村地域や漁村地域でも取り組まれました。今後は地域的な拡がりとともに、男女共同参画意識のレベルアップが課題とのことでした。

また、石巻市では、NPO法人石巻復興支援ネットワークの兼子代表理事から、女性に特化した人材育成や起業支援について聞かせていただきました。民間企業の復興支援プログラムを上手く使いながら起業人材を育成するとともに、その交流の場を設けるなど、課題解決に向けた「つなぎ役」として支援する仕組みを確立されていました。

岩手大学男女共同参画推進室では、菅原副学長(男女共同参画担当)から女性研究者支援の先進的な取組について聞かせていただきました。

KPIリレーコラム

今回は、12月の京都環境文化学術フォーラムスペシャルセッションでパネリストを務めていただいた、古田先生がご登場です!

「古くて新しい学問分野 ...それが森林科学です!」



▲入るはずのない穴に入っている矢じりとお守り...ヒントは「髪の毛の寝ぐせを直す」です。詳しくは古田(furuta@kpu.ac.jp)まで!

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科准教授

古田 裕三

森林と聞くと、皆さんはどのようなイメージを描かれるでしょうか? 樹木、環境、水、川、災害防止、空気、動植物、木材、キノコ、レクリエーションなどでしょうか。

森林科学とは、これら森林に関係する多くの基礎を学んだのちに、それぞれに関係した専門に特化して研究・教育を行う学問分野です。したがって、研究分野も様々で、樹木の光合成や水の移動の研究をしている人、森林の動植物の生態を調査研究している人、砂防ダムの研究をしている人、森林から出る土砂や水の研究をしている人、森林の歴史や人との関わりを研究している人、森林の恵みを持続的に維持するための森林計画を研究している人、木材や竹材を利用した新素材を研究している人、木材化学成分やキノコの研究をしている人、木質バイオマスの有効利用を研究している人など様々です。

最先端の科学はもちろんのこと、地球環境から地域社会まで、文系理系問わず森林に関われば、それが森林科学なのです。